

限界代替率逡減の法則

代替性のある二つの消費財，たとえば牛肉とコメについて，消費者の効用を変えないように牛肉の消費量を減らしコメの消費量を増やして行くと，コメ 1 単位によって置き換えられる牛肉の量は，コメの消費量が増えるにしたがって次第に小さくなる．

I. 無差別曲線

A. 効用との関係

1. 一つの無差別曲線上にある財のさまざまな組み合わせの効用は，みな等しい．
2. 右上方の無差別曲線が示す効用は，左下方の無差別曲線が示す効用より大きい．

B. 特徴

1. 右下がり
2. 原点に対して凸
3. たがいに交わらない

II. 限界代替率

A. 二つの見方

1. コメの牛肉に対する限界代替率
1 単位（たとえば 1kg）のコメで代替できる（効用を変化させずに置き換えられる）牛肉の量．
2. 牛肉のコメに対する限界代替率
1 単位（たとえば 1kg）の牛肉で代替できる（効用を変化させずに置き換えられる）コメの量．

B. 無差別曲線の傾き

III. 限界代替率逡減の法則

A. 二通りのいい方

1. 効用を一定に保ちながら牛肉の消費量を減らし，コメの消費量を増やして行くと，コメの消費量が大きくなるにつれて，コメの牛肉に対する限界代替率は次第に小さくなる．
2. 効用を一定に保ちながらコメの消費量を減らし，牛肉の消費量を増やして行くと，牛肉の消費量が大きくなるにつれて，牛肉のコメに対する限界代替率は次第に小さくなる．

- B. 一つの無差別曲線について見ると，その傾きは，右方に行くほど小さくなる．

参考文献

教科書．第 3 章，第 2 節．51-52 ページ．